（様式2）

平成20年度　学校経営計画書に対する最終報告書

石川県立高浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1　基本的生活習慣の確立を目指し，全教職員の共通理解に根ざした生徒指導に取り組む。	①現在も行っている入室許可制を徹底し，生徒に遅刻の防止を呼びかける。	遅刻ゼロ習慣期間中に一度も遅刻をしない生徒が全校生徒の A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A	「遅刻ゼロ習慣」は今年度5回行い，一度も遅刻をしない生徒が95%である。徐々に遅刻者数が増加しているが，期間中は遅刻をしないという意識は非常に高いと考える。 今後は朝の遅刻指導だけではなく授業開始時刻に着席し準備ができているように指導していきたい。また，「遅刻ゼロ習慣」の期間も延長していきたい。
	②面接・礼法指導を通じて，将来の社会生活に適応する生活態度の養成につとめ，礼法などの指導を行う。	面接・礼法指導を受けた生徒に対して，自分の考えが話せるようになったと答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A	進学や就職における面接試験に対する準備として，面接や礼法指導を集団･個別と徹底して指導している。そのおかげで，指導を受けた生徒のほとんどが，合格や内定を早期に獲得できたものと分析している。また3年生を対象にしたアンケート結果でも，100%近い生徒が指導は役に立ったとの回答であった。 今後は，面接を控えた3年生ばかりではなく，1･2年生でもマナー指導等が行える機会を設けたい。
	③健康診断の結果を通知し（受診票配付）受診（治療）率を上げる。	A：歯科受診率40%以上である。 B：歯科受診率20～40%未満である。 C：歯科受診率10～20%未満である。 D：歯科受診率10%未満である。	A	2月6日現在歯科受診率43%である。11月に受診状況の確認のため全校生徒にアンケートをとった際，受診したがそれを報告していない生徒が何人も出てきたので，アンケート等での確認は必要と感じた。今回は無事40%以上の受診率になったが，今後も受診率向上のため指導を続けていきたい。
	④支援が必要な生徒への（特別）支援策を検討する。	支援の必要な生徒がいた場合 A：支援の必要な生徒，全員の支援策を検討できた。 B：支援の必要な生徒の内，約７割の子の支援策を検討できた。 C：支援の必要な生徒の内，約５割の子の支援策を検討できた。 D：支援策の検討をしなかった。	支援対象生徒なし	要支援生徒が出てきた場合に備えて，支援体制の整備を進めておきたい。 本年度はその他にも，生徒の悩みや意見を真剣に聴くというねらいで，全校面談週間が2回設けられた。また，生徒に対する日常的な声かけも，各学年団の先生方を中心になされており，その成果だと思うが，第2回のアンケートでは，第1回のアンケートより，各学年ともAの数値に上昇が見られた。(1年＋6%･2年＋23%･3年＋11%)全体でも，Aの数値に13%の上昇が見られ，取り組みの成果が数字に表れたのではないかと思っている。ただ，1年生のC＋Dの値については，第2回のアンケートでも52%と依然として数値が高いので，1年生に対しては，個別の面談機会を増やすなどの更なる取り組みが必要かと思われる。
学校関係者評価委員会の評価	生徒は概ね落ち着いて，安心で安全な学校生活を送っているようである。遅刻ゼロ（習慣）等の強化指定日には規則順守の意識を示すが，指定日が過ぎると規範意識がゆるむ生徒もいるようである。次年度も基本的生活習慣の確立は大切なことなので，粘り強い指導を全校で取り組んでほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	登校時の遅刻指導だけでなく，授業開始や終了，集会集合時間や移動時間など，全教職員とともに時間を順守する習慣がつくように，今後とも継続して指導していきたい。			
2　自尊感情を向上させ，自己肯定感を育み，「生きる力」を醸成する。	①部活動への全員加入を促進し，運動能力等の向上を図る。	部活動への取り組みに対して A：十分満足している。 B：満足している。 C：満足感がうすい。 D：充実感が得られず不満が残った。	C	A･Bの評価が58%，C･Dの評価は42%である。第1回アンケートよりA･Bの評価が下落しており，反省事項である。総体･総文後の部員減少もあり，特に後期の部活動は，学校全体としてみると低調な傾向があった。次年度以降は，志賀高校との連携も含めて，部のあり方の再検討が必要である。
	②２年次のインターンシップを通じて，自己の職業生活をたくましく切り開いていこうとする意欲や態度を身につける。	インターンシップが進路決定の参考になると答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A	インターンシップの活動が，直接的に就職活動になるわけではない。しかし就業体験を通じて，生徒が自分の将来像を描きはじめるきっかけになっているようである。報告書のアンケートでは，93%の生徒が進路選択する上での知識を得ることができたとの回答であった。 次年度の改善策は，“きっかけ”にとどまらず，より論理的で明確に将来像を描ける指導方法を考える必要がある。

石川県立高浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③浜高祭（文化祭・体育祭）に全校生徒が積極的に参加し，協力して行えるように課題を提供して，生徒の意識を向上させる。	浜高祭（文化祭・体育祭）に A：クラスやサークルの中心となって積極的に取り組んだ。 B：自分の役割を十分に果たした。 C：自分の役割をまあまあ果たした。 D：消極的に取り組んだ。	C	全体の3分の2程度の生徒は自分の役割を積極的に果たしたようである。来年度は，志賀高校の学校祭との合同開催も含め，実施形態・内容に関して密接な連携が必要である。
	④「いしかわ学校版環境ISO」実践校として学校や家庭で節電や節水に積極的に取り組む。	学校や家庭で節電や節水に対して A：積極的に取り組み十分実践した。 B：環境に配慮し，実践した。 C：環境に関心があったが，あまり実践できなかった。 D：全く実践できなかった。	B	6月と1月に環境に関するアンケートを実施した結果，ほとんどの項目で環境意識の向上が見られた。特に，空き教室の消灯やゴミの分別，水道の蛇口を閉めるなどは90%を超え，意識の定着が図られている。また，家庭での実践を行っている生徒もいる。次年度は，石川版学校環境ISOの認定3年目であるため，新たな取り組みを生徒・教職員で模索し実践する。

学校関係者評価委員会の評価	各部活動で，活発に活動している部や活動が低迷している部がある。特に3年生が引退する県総体以後の部活動に課題があるようである。加入の少ない部は見直す時期にきている。生徒一人一人に役割を与えて，達成感や自信が持てる取り組み・工夫をお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	部活動の全員加入を勧める一方，さらに活性化させるために志賀高校・富来高校との合同活動も考えていきたい。但し，運営上難しい問題点あるので顧問間で十分な協議を行って問題点を克服していきたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 基礎学力の向上と個々の能力，適正等に応じた進路実現のため計画的・組織的な指導体制の確立を図る。	①研修・研修講座に積極的に参加し，教育ウィーク等を機に公開授業を展開し授業の改善を進める。	公開授業を実施し，外部の意見等を踏まえ A：授業改善が十分進んだ。 B：授業改善が十分とは言えないが生かされた。 C：授業改善が少し生かされた。 D：授業改善に生かされなかった。	A	本校教員は，今年度県教育センター主催研修講座に10人の参加を始めとして，教育課程研究集会，各教科部会等にも積極的に参加し研修に努めてきた。また，今年度も11月に2教科で教科指導等研究会を開き，指導主事を招いて研究授業を行ってきた。教育ウィーク期間中には，志賀広報，本校ホームページ等に実施計画を載せるなど広く地域住民に参観を呼びかけ公開授業を行った。その結果，教職員のアンケート調査では，Aが46％，Bが50％であった。授業対象生徒は毎年変わるので，今後もより良い授業を目指して，次年度もこのような活動を続けていきたい。
	②各教科で定期（中間・学期末）考査と定期考査の間に，最低２回以上の確認テストを実施することによって，基礎学力の向上と家庭学習の意欲を高める。	A：家庭学習を毎日２時間以上した。 B：家庭学習を毎日１時間以上した。 C：家庭学習を毎日30分以１時間未満した。 D：家庭学習を毎日はしなかった。	D	生徒に家庭学習時間のアンケート調査をした結果，前期は1人平均22分，後期は1人平均20分であった。また，家庭学習の内容についてみると，宿題と授業の復習と答えた生徒が圧倒的に多かった。次年度は本校教員に対して，この点を踏まえた取り組みを働きかけ，さらに徹底していきたい。
	③学年毎に重点科目について補習授業を行い，進学希望者の実力向上を期すると共に各種模擬試験を行い，結果の分析を進学指導に活かす。	普通科１年生の実力テストと２・３年生進学希望者の補習授業・各種模擬試験の参加率が A：90％以上が受講・受験する。 B：80％以上90％未満が受講・受験する。 C：70％以上80％未満が受講・受験する。 D：70％未満しか受講・受験しない。	B	実力テストや模擬試験は，受験申込者全員が受験している。そのうち，4年制大学を志望する者が補習授業に参加する割合は，85％であった。進路希望実現のためには，進学希望者が実力試験の結果によって自己の学力を計り，教科別に対策を立てて志望校の選定に取りかかる時期は早いほうがよい。意欲的に実力テストに臨む姿勢が身につくよう，今年度より1年次からの補習授業も取り入れた。今後は，継続して補習授業に参加できるように生徒達をサポートしていきたい。
	④社会や職業の構成や意義をよく理解し，認識させる。そのために進路に関する情報を整理・把握し，効果的活用を図る。	進路からの情報が適切で満足できると答える保護者の割合が A：60％以上である。 B：50％～60％未満である。 C：40％～50％未満である。 D：40％未満である。	A	昨年度より進路だよりの発行回数を増やすなど対策を講じてきた。そのため，第1回アンケートよりは満足度が増加したが，まだ不十分である。 進学・就職を問わず，生徒や保護者にとって有効な情報を発信できるように努力したい。

石川県立高浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
学校関係者評価委員会の評価	習熟度授業，補習，面接指導など生徒一人ひとりの進路を見据えた指導がなされている。生徒による授業評価も良好である。しかし，生徒の家庭学習時間が22分と大変少ない。家庭学習ができない生徒には，授業時間に集中させて学習内容を理解させてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	今後も生徒一人ひとりの進路を見据えてきめ細かい指導をしていく一方，家庭学習については，学校と家庭との連携をさらに密にして，家庭学習の習慣付けを図りたい。そのために放課後の学校施設利用を提案していきたい。			
４「開かれた学校作り」の一層の推進を図る。	①保護者や地域住民との交流機会を増やすために，３年生の課題研究及び総合的な学習の時間の研究発表会などの学校行事を休日開催にし，保護者等にも見学してもらって教育活動の理解に努める。	発表会を一般の人にも見学してもらい A：参加者の80%以上が発表に満足している。 B：参加者の70%以上が発表に満足している。 C：参加者の60%以上が発表に満足している。 D：内容に満足とした参加者が50%未満であった。	A	今年度の研究発表会は，2月7日の土曜日に志賀町文化ホールで行った。事前に志賀広報や本校ホームページに実施計画を載せるなどして，広く地域住民に広報活動を行ってきた結果，保護者20名の参加を始め学校関係者6名，企業関係者6名からの参加があった。 アンケート調査の結果は，「A」評価を得ることができた。本校の教育活動をよりよく理解してもらうためにも，次年度もこの取り組みを続けていきたい。
	②周辺地域住民を交えての合同防災訓練を実施したり，海岸清掃やクリーンキャンペーン，街頭指導を行うなどをして，地域に貢献しながら地域一体型の学校を目指す。	学校発信文（学級通信やPTA通信）以外で学校の様子や情報を目にしたのが A：５回以上であった。 B：３回は目にした。 C：１回は目にした。 D：一度も目にしたことがない。	A	第2回の学校評価アンケート結果では，Aが17%，Bが34%であった。今年度は生徒の活動様子を知ってもらうために，地元新聞社に多くの記事を載せてもらった。海岸清掃ボランティア，夏の高校野球全校応援，体育祭での園児遊技，薬物乱用防止教室，方言かるたの作成と寄贈，就職模擬面接，文化祭，異世代交流活動や10月の地域住民を交えた合同防災訓練等多くの活動が記事となった。さらに今年度は射撃部の国体出場や野球部の活躍があって学校の様子を知った保護者も多かったと推測する。さらに今年度は海岸清掃ボランティア，同窓会総会，文化祭そして地域合同防災訓練等で，昨年度より数多くポスターを町内に掲示したこともよかったと考える。次年度もこれを続けていきたい。
	③保護者による学校行事，PTA総会や講演会，研修旅行などへの参加者増加を推進し，保護者と学校側が一体となって生徒理解に努める。	一年間で来校した回数や学校行事に参加した回数が A：５回以上である。 B：３回以上である。 C：１回以上である。 D：０回である。	B	第2回の学校評価アンケート結果では，Aが10%，Bが34%であった。PTA総会では，保護者数148名中30名の出席があり，PTA研修旅行では12名の参加があった。また9月にPTAが企画した校舎内環境整備（ペンキ塗り）では6名の保護者が参加して，ボランティア生徒，職員46名と共に汗を流して活動した。文化祭の「ちらし寿司販売」では，その事前打ち合わせに16名，当日に15名の保護者の参加があり好評であった。10月のマラソン大会の「豚汁サービス」では17名，12月のフラワーアレンジメント教室では保護者17名の参加があり，年間を通してPTA活動は活発であったと考える。しかし来校する保護者は大体固定しているので，その裾野を広げていくための働きかけや内容の吟味が必要であると考える。
学校関係者評価委員会の評価	学校の教育内容の広報を多面的に行い，地域の人や保護者が参加できる機会を多く作っていて，地域に開かれた高校のイメージを強くした。次年度以降もこのような取り組みをしてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	今後も学級通信，図書だよりや保健だよりを多く発行すると同時に，「しか広報」やマスコミ等を利用して多くの保護者や地元住民に高浜高校を発信したいと考える。また保護者が多く学校に来校してもらえるような企画をＰＴＡとともに考えていきたい。			

石川県立高浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
５ 平成２１年度開校の石川県立志賀高等学校の準備に万全を期す。	① 各分掌が一体となって地域住民や中学生にPR活動を行い，新高校に対する理解と支援を得る。	高校主催の学校説明会に参加した中学生が新高校の情報を得られて A：説明が分かりやすく，魅力ある学校で，ぜひ入学したいと思った。 B：新しい学校のことが分かって，入学する気持ちが湧いてきた。 C：新しい学校の様子は理解できたものの，まだ受験を迷っている。 D：説明会に参加したが，受験先とはしない。	B	8月26日，27日実施の体験入学では，101名の中学生が参加した。その時実施したアンケート結果では，97%の生徒が志賀高校とはどんな学校であるのかが理解できたとの回答であった。体験入学は中学生にとってよい学校説明の機会であったと評価できる。また志賀町の広報誌である「広報しか」11月号・12月号の両号に1ページにわたっての紹介記事を載せていただき，さらに志賀町ケーブルテレビを利用して1月後半から3月初旬まで放送してもらっている。マスコミを利用して積極的にPR活動を行ったことも，地域住民や中学生に志賀高校を知ってもらういい機会になったに違いない。
	② 各分掌が一体となって近隣中学校，教育機関等に出かけて，新高校のPR活動を行い，新高校に対する理解と支援を得る。	本校教職員が，各種学校説明会に出かけた回数の合計が A：７回以上である。 B：５回以上である。 C：３回以上である。 D：１回である。	A	7月に中学生とその保護者を対象に富来地区と志賀地区に1回ずつ，8月の体験入学では2回，9月に近隣の中学教諭を対象にした説明会を1回，また志賀中学と中能登地区の中学生に対して1回ずつ，さらに11月に志賀中学と羽咋中学の3年生と保護者を対象に1回ずつ志賀高校の説明・PR活動を行ってきた。他に，リーフレットや志願者心得をもって近隣の中学校全てを訪問し，再三のPR活動も行ってきた。以上のことから評価を「A」と判断した。

学校関係者評価委員会の評価	高浜高校の校務が忙しい中，各分掌で分担して，志賀高校開校の準備に取り組んでいる様子が伺えた。地域に高校を存続させ，地域の負託に応える高校になってもらいたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	志賀高校開校に向けて，高浜高校・富来高校両行の先生から編成された設立準備委員会も１４回を数えて，体制作りは万事整った。定員は充たさなかったものの，体験入学に集まった生徒数以上の受検者が集まった。今後は新高校の生徒として新入生がスムーズに学校生活をスタートでき，一期生として地元の期待に応えられる生徒の育成に努めたい。